

<IT パスポート試験 講評>

テクノロジー系、マネジメント系、ストラテジ系の出題数は数問のバラツキはあるものの、ほぼ公表された比率どおりです。

■小問形式(問1～88)

テクノロジー系は、問 59 のクッキー (cookie)、問 60 の IPv6、問 62 のシングルサインオンといった、基礎用語の出題、問 61 や問 88 のチェックディジットのようなやや「レベル 1 シラバス」の範囲を超えた用語の出題、問 53 の完全性のような、基本情報でよく問われる問題など、様々なレベルの問題が出題されました。とはいえ、「レベル 1 シラバス」の範囲と過去問題から、重要な用語や公式を理解すれば解ける問題が小問 36 問のうち 24 問あり、基礎を中心に確実に学習すれば合格レベルの確保はできたのではないかと考えます。

ストラテジ系は、問 3 のオフショアアウトソーシング、問 5 のグリーン IT、問 7 のフォロアなど、「レベル 1 シラバス」では学習が難しい用語が出題されているほか、問 4 のように RFP の意味を理解したうえで、ベンダを選ぶという基本情報レベルの問題も出題されています。ただし、新用語や難易度が高い問題は、小問 32 問のうち 12 問程度で、60%近くは過去問題や重要キーワードを確実に理解すれば得点できたと考えています。

マネジメント系は、サービスマネジメントの重要知識である ITIL、開発プロセスの重要な考え方である SLCP、プロジェクトマネジメントの基本用語を理解すれば、小問 20 問のうち 14 問は解答できる問題が出題され、試験対策をしっかりしていれば得点できたと思います。

■中間形式(問 89～100)

中間 A のソフトウェアテスト、中間 B のデータベースのアクセス権限、中間 C のプロジェクトマネジメントの作業計画という構成で、小問をストラテジ、マネジメント、テクノロジーに分けていますが、実質は開発技術、技術要素、プロジェクトマネジメントの各分野の問題と言えます。この傾向は前回試験にも見られるので、こうした特定のテーマが、やや深く問われることを意識した学習が必要です。中間は、全体を通して、やや時間的に難しいと感じる方が多かったのではないかと感じます。

今回の試験を分析すると、下記ようになります。

分野	分類	2010/10		2010/04	
		出題数	全体比率	出題数	全体比率
ストラテジ系 (35 問 うち小問 32 問、中間 3 問)	企業と法務	12	12%	15	15%
	経営戦略	9	9%	13	13%
	システム戦略	14	14%	7	7%
マネジメント系 (25 問 うち小問 20 問、中間 5 問)	開発技術	10	10%	12	12%
	プロジェクトマネジメント	9	9%	5	5%
	サービスマネジメント	6	6%	8	8%
テクノロジー系 (40 問 うち小問 36 問、中間 4 問)	基礎理論	8	8%	10	10%
	コンピュータシステム	8	8%	11	11%
	技術要素	24	24%	19	19%

時間難易度、内容難易度は、前回(2010 年度春)と「ほぼ同等」ですが、小問の新傾向問題や難易度の高い問題の出題数が若干増えていることから、前回試験でボーダーラインの知識レベルでは、厳しい試験だったと分析しています。